



枚方・交野の眺望 (国見山から南西を望む)

発行所 枚方・交野地区保護司会
 ホームページ
www.hirakata-shakyo.net/hogoshikai/
 発行者 山 本 光 茂

TOPICS

- ◎ 一面 会長新春挨拶
- ◎ 二面～六面 作文コンテスト優秀作品集
- ◎ 七面 保護司会の活動報告
- ◎ 八面 保護司の荣誉と動静・薬物乱用防止授業

枚方・交野地区保護司会

会長 山本 光茂



旧年中は更生保護活動にご尽力賜り、心から厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと令和二年一月に日本で新型コロナウイルスが検出され、感染症により日本全体で企業、学校、地域において大きな影響を受け、先行きの見えない状態が続いていました。

保護司会においても、感染拡大を考慮し、定例会・研修会や社会を明るくする運動等の事業を中止や延期せざるを得なくなり、一部

書面開催をする等、活動を大幅に制限したところです。

保護観察においても、対象者との面接は非接触で行われ、実際の生活状況が把握出来ず十分な指導が出来ないとの声も聞こえていました。

そのような状況が続いていましたが、昨年末に緊急事態宣言が解除され、定例会・研修会を開催することができるようになりました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が、まだまだ予断を許さない状況にあります。一刻も早く終息し、本来の保護司活動ができることを願っているところです。

国においてはICT(情報通信技術)の活用として

の保護司ホームページの利用、保護司の負担軽減を図るための新任保護司に対する複数担任制等、新しい制度が導入されることになっています。

また、保護司の高齢化により退任者が新任者を上回るが見込まれることから、保護司の安定確保が緊急の課題として提起されています。

今年も、目まぐるしく変化する社会情勢に対応した保護観察の充実強化や研鑽に努め、犯罪のない安全で安心できる地域社会を築くため取り組んでまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ホームページへのアクセスはこちらから

第71回社会を明るくする運動

作文コンテスト優秀作品特集

- 大阪府応募総数……20,864作品
 - 小学生の部……………8,087作品
 - 中学生の部……………12,777作品
- 枚方市・交野市応募総数…728作品
 - 小学生の部……………384作品
 - 中学生の部……………344作品

枚方・交野地区保護司会

会長賞	交野市立第四中学校2年	岡田 彩音
優秀賞	枚方市立東香里中学校1年	半田 愛生
	枚方市立東香里中学校1年	小林 楓果
	枚方市市立香里小学校6年	平谷 えりん
	枚方市立香陽小学校5年	細谷 笙子
	交野市立星田小学校6年	藤原 沙妃



本特集記事は赤い羽根共同募金の助成を受けて作成しています。

枚方・交野地区
保護司会
会長賞

優しさ

交野市立第四中学校 2年

岡田

彩音

社会を明るくする運動。そう言われても、私は正直、ピンとこなかった。

自分の学校で、よくテレビで見ているような、犯罪や非行にほしっているような子を見かけることもないし、自分の身に危険が迫るようなことをする人もいない。

私は五年前、父の転勤でこの町に引っ越してきた。大好きな友達と離れるのはとても寂しくて嫌だった。

でも、引っ越してきて初めて学校に行く日、同じマンションに住む友達が家に誘いに来てくれたその時、私の中の不安が消えた。学校に行くのには登校班があつて、一人で学校に行かなければならないかもという不安もなかった。学校に着いて、自己紹介をするのは緊張したけれど、先生はもちろん、クラスみんなもとても優しく、何より学校全体が転校生に対して温かかった。それからすぐに、たく

さんの友達が声をかけてきてくれた。

ある日、友達と遊びに行く途中、私はこけてしまった。すると友達の一人が駆け寄ってきてくれ「大丈夫？大丈夫？救急車呼ぼうか？」と声をかけてくれた。大げさだなと思っただけで、なんて優しいんだらうと思った。前の学校で、遠足の時にこけたことがあつたけれど、その時、まわり

にいたクラスの子に、「だっせー」と言われたことを思い出した。あの時は、痛さと言われたことの悲しさで涙が出た。

この町に来て、いろんな友達のお母さんが気にかけてくれ、声をかけてくれる。小学校の登校時には、見守り隊の方がいてくれたり、地域のお母さんが旗当番に立って声をかけてくれていた。下校の時

も、地域の方が見てくださって、声をかけてくれることもあつた。

そんなことで、中学生になつても、スーパーに行くところ

どこかで会ったことがあるなあと思う人に会う気がする。たくさん知り合いがいるというか、出かければ誰か知っている人に会うというか。今は、コロナであまり遠出もしないし近場ばかりで過ごすから余計にそう思うのかもしれないけれど。

この町には、優しい人が多いなと思う。もしかすると、こ

うやっていろんな人に見守られていてのを実感できる町だから、寂しいと感じることもなくて、みんなに優しくできると、悪いかもかもしれない。だから、悪いことをする子も少ないのかなとも思う。

まだ私が生まれる前、母のお腹の中にいたころ絶対安静が続く日があつたそう。そんな時、知り合いもいないところで不安な母に、隣の人が毎日のように玄関のドアノブに食事をかけてくれたそう。母は、自分が動けないからお礼もできなくて申し訳ない気持ちでいっぱいだった。いいの、恩返しっていいの、隣の人に伝えると、いいの。ね、自分ができるようになつ

た時に自分の目の前で困っている人に、すればいいのよ。わたしに返すなんて思わないで。」

と言われたそう。それから私が生まれても、よく家に「お茶しにおいで」と誘ってくれたり、「お母さんは疲れるやろ。ちよつと休みい。」と、ちよくちよく誘ってくれたそう。私はあまり覚えていないが、とても優しい人だった。

そんなお隣の方が、ガンで亡くなり母は相当ショックを受けていたけれど、その時の温かい気持ちや言葉は一生忘れないし、

「自分が誰か困っている人を助けることで、森本さんはずっと私の中で生きているのよ。」

よ。」
今のは、勉強や部活や塾に忙しくて、あまり余裕はないけれど、いつも優しい気持ちをもって人に接していきたい。

そして自分が今、親や友達や周りの人からやってもらっていることの恩返しをいつか自分ができたらいいなと思うし、そうすることで周りの人や地域の人もつながっていく

けたらいいと思う。地域の中で声をかけてたり、かけあったりすることで人とつながり、それが少しずつ大きくなっていけば社会は明るくなると思う。

「Aちゃんは用事で行かれへんらしい」と返って来ました。一緒に行きかけたかなと思

いながら、夏祭り当日を迎えました。しかし、Aちゃんは来ました。

「行けるようになった！」と嬉しそうにやって来ました。

「私も一緒に行ける！」と嬉しかったです。しかし、二人は「なんで来たん？」

「行かれへんって言ったやん！」と言っていました。私は、どうしてこんな事を言うのか不思議でした。私は、二人に何か言おうと思いましたが、Kちゃんに

「先行こうー」と言われて、AちゃんとMちゃんは、後から来るだろうと思ひ、



私は、はじめは他人事のように思っていました。私が小学四年生の時から、ある三人の仲に違和感を感じました。そこで私がその時体験したことを

夏祭りにMちゃんとKちゃんに誘われました。三年生の時に転校してきた、Aちゃんとも仲が良かったので「Aちゃんも誘うやろ？」と聞く

ていたら…という罪悪感しかありませんでした。その日の夏祭りは全然楽しめませんでした。しかし、二人は楽しんでいました。なので、楽しいふりをしたら分かるかもしれないと思っただけで、楽しいふりをしていました。結局私は何故楽しんでいるのかわかりませんでした。私は二人に理由を聞く勇気がありませんでした。

それから三人を見ていると少し仲がいいように見えました。私は少し安心しました。しかし、たまにパシられているのを知っていましたが、誰にも言わず、可哀想としか思っていないませんでした。

それから二年経ち、六年生になりました。私は、Aちゃんと休みの日はほぼずっと遊んでいるぐらいとても仲良くなりました。なんでも言い合えるぐらいになり、夏祭りの話になり、Aちゃんが

「あの時ははじめの真つ最中やったな」と言いました。私は驚くと同時に私の無能さが分かりました。

そして、はじめの話を聞きました。それは、転校してきて

慣れてきたと同時に、たくさんパシられたり、タイピングが得意で、それを利用して、「計画を立てる」などと言われ、しかしそれは水の泡になったり、宿題をさせられたり、二人が、好きなキャラクターやその話を覚えてたくもないのに覚えさせられたり、Aちゃんは虫が大嫌いなのに、帰るまで腕にセミの抜け殻を乗せられたりなどと、六年生の始めぐらいまで嫌な思いをたくさんしてきたそうです。

私は少しパシられていたという事を知っていたので、知っていたのに止めないというはじめをしていたんだと分かりました。

私がいじめられている側だと想像すると、とても心が痛くなりました。そして、これからはじめに近いと思つたら、見てみぬふりをせず、注意しようと思ひました。

この経験を通して、はじめに近いと思つたことは注意するか、先生に言おうと思ひました。そして、いじめている人

自分がされたらどう思うのかを考えて欲しいと思ひました。

自分がされたらどう思うのかを考えて欲しいと思ひました。

枚方・交野地区
保護司会
優秀賞

「おかえり」を作る社会

枚方市立東香里中学校一年 小林 楓果

最近、世界の問題となつて
いるコロナウィルス。その中
でも、感染者に対する差別や
偏見が生まれています。そこ
で、私たちは、何ができるのか
を考え、小学生の保健委員の
時に「シトラスリボン」を作り
ました。

シトラスリボンとは、シト
ラス色のリボンや専用ロゴを
身につけ、コロナの感染者や
医療従事者の方々に「ただい
ま」「おかえり」の気持ちを表
すプロジェクトです。リボン
やロゴで表現する3つの輪は、
地域、家庭、職場といった意味
が表されています。

そこで私は考えました。も
し、シトラスリボンを身につ
け、「おかえり」と言いあえる
社会だと安心して社会が明る
くなるのではないかと。誰で
も差別や偏見を受けると心が
暗くなります。だからこそ、コ
ロナに感染していた人々を差
別や偏見をせずあたたかくす
ることでその人の心もあたた

まるのではないでしょう。か。
そして、誰もが暮らしやすく
なると思っています。
私は、実際に障害がある人
体が不自由な人を見かけたこ
とがあります。その時に差別
や偏見を持つと、その人は悪
くないのにその人が悪いよう
になつてしまう罪悪感がある
なと思えました。その人が悪
いようになると社会は、明る
くはないと思います。それは、コ
ロナでも同じように考えられま
す。感染者は何も悪くないの
にその罪悪感が生まれ、社会
は明るくなりません。

でも、そのような社会でも、
「ただいま」「おかえり」とい
う一言で一変します。人々が安
心してすつきりできる、罪悪
感をかかえない社会が一番明
るいですよね。そのような社
会を作るために、シトラスリ
ボンをみんなで作り、気持ち
を伝え、同じ人間だから支え
ていく事が大切だと思ひ、私
も、もつと「おかえり」とい

気持ちを伝えていこうと考え
実行して社会を明るくして
きたいです。
社会を明るくするために大
切な事は「一人一人の行動」だ
と思ひます。一人一人が行動
する事で絆がどんどん生まれ
ていき、誰も後悔のない人生
が送れるでしょう。私は、シト
ラスリボンを作る事で社会が
変わる、差別や偏見をなくす
ということはずばらしいと思
ひます。一人一人がシトラス
リボンを作つていき、明るい
社会を一緒に生んでいき、そ
の人の絆をどんどん深めて
いくというのが本当の人間が
住む「社会」だといえるので
はないかと考えました。
世界には、様々な問題があ
ります。差別や偏見などもそ
うです。だからといって行動
をしないのはおかしいと思ひ
ます。問題を成功へと導く行
動をするのはとても大切なこ
とです。差別や偏見を一人一
人が持つたりしたりする社会
ではなく、公平に平等に接し
ていくことを大切にしている
社会の方が成功に導けると思
ひます。私はその活動などに
参加して、少しでも明るい社

会を目指していけたらと考え
ています。そして、人々の心を
あたたかくしていきたいです。
今回、社会を明るくする運
動についての作文を書いて、
やはり社会は明るいからこそ
気持ち良いんだと思ひまし

枚方・交野地区
保護司会
優秀賞

サドルと豆とじやい

枚方市立東香里小学校六年 平谷 えりん

た。シトラスリボンを身につ
けて気持ちを伝えるだけでな
く、他にも、その問題に對して
何ができるのかを考え、積極
的に活動に参加していきたい
と考えることができた良い機
会でした。

夏休みにお母さんと、お母
さんの小学六年生の頃の話を
していました。お母さんは、ス
イミングの選手コースに電車
で通っていたそうで、家から
駅までは自転車に乗っていた
そうです。ある夏の日、しんど
い練習が終わって、くたくた
になりながら駅の自転車置き
場に行くと、なんと自転車の
サドルだけがなくなっていた
そうです。自転車泥棒は多
かったのです。しつかり自転車
に鍵をかけて、タイヤには
チェーンもかけていました。
しかし、さすがにサドルには
チェーンをつけていませんで
した。サドルだけ盗る泥棒が
いるとは思ひもつかなかった

そうです。携帯電話がない時
代だったので、半泣きになり
ながら、公衆電話で家に電話
をかけたたら、おばあちゃんに
「あらあ。しゃあないなあ。立
ちこぎで帰つといで。」
と言われ、またもや半泣きに
なりながら自宅まで立ちこぎ
で帰つたそうです。
また、別の日の話もありま
す。スイミングの練習後に食
べるおやつが、お母さんのさ
さやかな楽しみでした。でも、
おばあちゃんは、「スポーツ選
手には栄養が大事や。」と言っ
て、おやつはいつも豆まきの
豆や、甘いじゃやこで、良い時
は、風船ガムだったそうです。
お母さんは、ポテトチップス

お母さんは、ポテトチップス

やチョコレートが食べたかったのですが、入れてもらえませんでした。ある時、遠足のために買ってもらったチョコレートを、お母さんは遠足では食べずに、スイミングの練習の後の楽しみに取っておきました。その日のスイミングの練習もともしんどかったけれど、チョコレートがあると思えば頑張れたそうです。練習が終わって更衣室で着替え、ロッカーに入れたカバンからワクワクしながらお菓子ケースを開くと、そこには、豆とじゃこしかありませんでした。お母さんは、「どうせ盗るんやったら豆とじゃこも盗れ。」と思ったそうです。私は、この話を聞いて爆笑しました。でも、よく考えたら、私は自転車も自転車のサドルも盗られたことはありません。習い事でおやつや何かを盗られたこともありません。たまたまラッキーだったのかも知れませんが、もしかしたら、お母さんの時代には無かった監視カメラやロッカーの鍵といった、今の時代では当たり前前の防犯装置の効果かもしれない。泥棒が少なくなった

ことは嬉しいのですが、盗むことは良くないという意識が浸透したのではなく、カメラに映るとバレるといいう気持ちで減ったのなら、カメラや記録に顔や名前が残らない犯罪は、減ることはないのかなと思います。インターネットの誹謗中傷も、自分とはバレ

枚方・交野地区
保護司会
優秀賞

「安心してくらせる社会」

枚方市立香陽小学校五年
細谷 笙子

ないと思つて、軽い気持ちで書きこんでしまうのかもしれない。バレるバレないではなく、やってはいけないことをやらないという、ただそれだけの気持ちで犯罪をする人が減ることが、この先の犯罪を減らすためには大切なことではないでしょうか。

私が思う明るい社会は、みんなが安心してくらせる社会だと思えます。

安心してくらせないと眠れなかつたり、食欲がなくなつたりしてしまいます。

私も犯罪や非行のニュースを見るたびに、すれ違う人いい人かな、この場所は安心かな、と警戒しながら歩くことがあります。

いつも警戒しながら生活しないといけないとしたら、とてもつかれてしまいます。

そんな時に近所の人など周りの人達が、「おはよう」とあいさつをしてくれたり、話し

かけてくれたら、見てくれてる人がいると安心できます。近所にどんな人が住んでいるか知つていけば、何かあつた時に助けられるかもしれない。

私は父の仕事で何回も引っこしをしました。知つている人が誰もいない所で、となりのおじちゃんが犬の散歩に一緒に連れていってくれたり、うらのおじいちゃんが野菜の収穫を手伝わせてくれたり、近所の人と仲よくできて安心できました。

近所の人達とのコミュニケーションをとることは、みんな

なが安心してくらせるための一つの方法だと思えます。また、安心してくらせる社会は、犯罪や非行を犯してしまった人にも必要だと思えます。

もし、犯罪や非行などを犯してしまった人がその後の人をやり直したいと思つた時に誰からも受け入れてもらえず安心して生活できる場所がなかつたら不安になり、また犯罪を犯してしまうかもしれません。新しい場所で新しくやり直したいという気持ちがなくなつてしまうと思います。

私も引っこして幼稚園や学校を何回も変わりました。新しい所で、友達ができるか、自分がみんなの仲間に入れてもらえるか、受け入れてもらえるか不安でいっぱいでした。そんな時に周りの人達がやさしく声をかけてくれて、受け入れてくれるとホッとしました。安心して学校にも楽しく通えました。

犯罪や非行を犯した人達も社会にもどる時は、不安な気持ちでいっぱいはずです。そんな時に、周りの人達から話しかけられたりやさしく

されたら、受け入れてもらえたと安心した気持ちを持つことができれば、もう二度と犯罪や非行をしないようにしようと思ふかもしれません。

犯罪や非行を犯した人達もそれまでは私達と同じようにくらしていたはずですが、なので私達ひとりひとりがそのような人に対して、話しかけたくない、かわりたくないと思ふのではなく、やり直しを受け入れることが大切だと思います。

犯罪や非行を犯した人が安心してくらせる社会になれば、みんなも安心してくらせる社会になると思えます。



枚方・交野地区
保護司会
優秀賞

みんなが思いやりをもつて

交野市立星田小学校六年

藤原 沙妃

ある日、それは電車の中で起きました。

おばあちゃん家へお母さんと妹で行っている時、前の席に男の人が寝ていました。周りにはあまり人がいなくて、しんまりとしていました。その時、寝ていた人がかばんからさいふを落とし、開いた状態でした。その後かばんを落としても、おきる気配はありませんでした。自分はそのままでいいと思いましたが、妹とも同じ考えでした。でも、お母さんはちがいました。

「見て見ぬふりをするのは、なにかスッキリしない。」
と言いました。前を通る人も気になりつつもみんなスルーしていきました。なやみなながらも自分たちがおりる駅にいた時、お母さんは寝ている人の肩をたたきおこして、「さいふおちてますよ。拾うのはちよつと。」
という感じで話しかけました。

男の人も、「あつ、すみません。」

と、落ちていたかばんとさいふを拾って、同じ駅でおおりてきました。
「お母さんが声をかけなければ寝過ごして、終点までそのままいっていかなくてもいい。」
「と中で、もしかしたら知らない人がさいふをとっていったかも。」
と思うとお母さんってすごいなと改めて尊敬しました。法務省によると、令和元年の窃盗は、じつに五十三万二千五百六十五件にのぼることが分かりました。電車に乗っていたのは、夕方でも人も少なかったのに窃盗がおこっていてもおかしくないと思うとおこして良かったと思いました。

この事をおばあちゃんとおじいちゃんに話したら「いいことしたら自分に返ってくるよ。」

「自分がしなくても、周りに頼ったら自分の身を守るよ。」
と言ってくれました。
このような事はいつどこで起こるのか分かりません。ま

ず電車だけで無く、地下鉄やバスなど色々な交通機関でもおきるかも知れません。自分はおこしてあげる前、
「なんて言うかな？逆にキレられないかな。」
という事ばかり、考えていました。でも逆に
「ありがとう」
と言ってくれる人もいるかもしれないと気づきました。でも自分一人だと勇気も必要だと思いました。例えば、印象が悪いと、少しこわく感じてしまいます。そういう時は、

「自分がしなくても、周りに頼ったら自分の身が守れる。」とおばあちゃんが言ったことも大切だと分かりました。そして判断力も大切だと思います。判断し状況を理解して、自分の身を守りつつ行動をした方がいい。そしてこれを理由にしたら自分もお母さんみたいになれることが出来ると分かりました。

自分は、電車で寝てもいいと思います。でももし、男の人のようにかばんとさいふを落としてとられても、自己責任になってしまおうと思うけど、周りに人がいるのなら、その

人が寝ている人をおこしたらいいと思います。このことをふまえて、今後は、みんなが安心して、いい気持ちの交通機関にしたいと思いました。

枚方・交野地区保護司会 「佳作」作品の紹介

●小学生の部

- | | | |
|--------------|--------|--------------------|
| 枚方市立開成小学校5年 | 吉田 義矢 | 「命はなぜ大切？」 |
| 枚方市立香陽小学校5年 | 青山 凜 | 「社会を明るくするためにできること」 |
| 枚方市立香里小学校6年 | 岸本 奈々 | 「一人にしない思いやり」 |
| 枚方市立蹉跎東小学校6年 | 大津 百菜 | 「可哀想なのは被害者だけ？」 |
| 枚方市立津田南小学校5年 | 大津 いちか | 「4R でつながる未来」 |
| 枚方市立東香里小学校4年 | 田村 真悠 | 「笑顔」 |
| 枚方市立平野小学校5年 | 山崎 萌 | 「いじめを世の中からなくすには」 |
| 交野市立星田小学校6年 | 西野 公揮 | 「ながらスマホ」について |

●中学生の部

- | | | |
|--------------|-------|---------------------|
| 枚方市立東香里中学校1年 | 藪本 菜月 | 「明るい社会とは」 |
| 枚方市立枚方中学校2年 | 安永 凪 | 「私にできること、あなたにできること」 |
| 交野市立第四中学校2年 | 大橋 碧 | 「言葉の力」 |

保護司会の活動報告

コロナ禍における保護観察

総務部 橘 隆



新型コロナウイルスの感染拡大により保護司が関わる保護観察や生活環境調整などに大きな影響があった。

令和二年四月七日「緊急事態宣言」が全国に発出され、大阪保護観察所からの指示により、宣言中は面接を避け電話による対応となった。

これまで対象者の表情や態度を注視し、十分話を聴くことを心がけてきたが、電話だと遵守事項

や日々の暮らしぶりなどの確認に留まり、短時間で終わることが多かった。

また、気が緩むのか約束時間に電話しても連絡が取れず、母親に連絡をすると「まだ、寝ています」「出かけています」ということもあった。電話の声だけで心の内を読み取るのは難しいと痛感した。

令和三年九月末日に四回目の緊急事態宣言が解除され、面接が再開。久しぶりの対象者の元気な姿と「仕事は休まず行っています」の言葉に安堵し、励みました。コロナ禍で二年近くに及ぶ行動

制限も緩和され、保護司としての活動も徐々に戻りつつあり、喜びを感じている今日この頃である。

映画「プリズン・サークル」を観て

研修部 端野 寛昭



枚方・交野地区保護司会の研修では、毎年十一月に管内研修を行っていたが、新型コロナウイルス蔓延のため、昨年度は受け入れ先を見つけることができなくなり、中止せざるを得ませんでした。ですが、本年度は映画観賞を実施しました。島根県浜田にある官民協働の刑務所に収監されている人たちに更生を促すプログラムを実施した実写映画です。



いろいろな過去を背負って今ここにいる人が、自分の犯した罪に真正面から向き合い、心の中を仲間と一緒に語り合っていく過程で、より深く自分をみつけどさうとする受刑者の姿から目を離せま

せんでした。他の刑務所にはない回復共同体（TC）の試みは、保護司の前でも語れない姿に見入ってしまい、非常に重く響く内容でした。会場内は、少しの動きもなく、参加された皆さんが、熱心に見ておられたシルエットは、この研修のあり方も「アリ」これから自分のやる面接に活用できるのでは？と思える内容でした。



保護司の栄誉

◎法務大臣表彰

新島佳世子
木田 ミツ

畑中 光昭
山本 光茂

◎全国保護司連盟

理事長表彰 今井美佐子

浅田 耕一

(家族功労) 平井八重子

◎近畿地方更生保護委員会
委員長表彰

大音 博司

吉田 久子

東 和宏

田村 正治

端野 寛昭

加藤 冬樹

井上 秀正

為金 信江

◎近畿地方保護司連盟

会長表彰 惠阪 順三

伊地知武志

伊藤 寛

渡辺 道男

山根 裕治

保護司の動静

◎新任保護司

◇令和三年九月二五日付

垂水 弘(郡津)

はじめまして



垂水 弘

まして、

保護司に委嘱されました垂水です。私は退職を機に認知がある九三歳の母と暮らし始めることになりました。今後は何か社会の役になることをしたいと、会社勤務時代に縁あって更生保護法人和衷会の刑務所等への施設見学・懇親会に参加させてもらったことを思いだし、犯罪者の更生、安全な社会づくりに貢献したいと保護司をお引き受けしました。皆様のご指導を仰ぎ、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

「薬物乱用防止」

― 出前授業に
願いを込めて ―

昨今、子ども達は種々の

危険に晒され、中でも「薬物」は喫緊の課題です。自らを守る正しい知識が望まれます。

大阪の中学生には高い確率で「薬物」への誘いがかかるという現状や、「枚方でもすぐ手に入る」と以前担当した対象者が話していた事からも「薬物」がごく身近に迫っているのです。又、「薬物」事案の再犯の多さから問題点も見えてきます。

そこで授業では、「薬物」のゲートに繋がりが易い未成年の喫煙や、「薬物乱用」が心身をむしばむ実態・依存性、周囲を巻き込みながら生涯にわたって与える影響等を、DVDの視聴や十問の「〇×クイズ」



で伝えていきます。そして、魔の誘いの「最初の一回」を断るといふ設定で、担任の先生と子どものロールプレイでまとめます。所々に見聞談も織り込み、担当者総出で訴える出前授業の四分五分です。(Y・H)

編集後記

コロナウイルス感染症拡大防止対策が緩和されつつありますが、依然として制約を受けながらの保護司活動が続いています。今回は、社明部・総務部・研修部・薬物乱用防止委員の活動を掲載しました。人が自由に会える「当たり前」の日常生活が一日も早く戻るよう願っています。(広報部一同)